

米 - トルコが、シリアで世界戦争へ動き出す

【訳者注】トルコのエルドアン大統領が、いつとき、ロシアにすり寄るような様子を見せたのは不可解だった。この論文の分析が正しいとすれば、やはりこれは悪事を隠すための笑顔外交だった。エルドアンの陰険さについては、実際に会ったことのあるアンドレ・ヴルチェックが指摘している。いろんなことを総合してみても、確かに彼は、世界の危機に乗じて画策するコソ泥のように見える。ということは、アメリカが組むのに格好な相手だということで、アメリカはますます世界的に見下されるようになるだろう。

ここに面白い仮定の話が用いられている——ヒトラーが、自分がポーランドを侵略したのは、世界を平和にするためだと言ったとしたらどうだろう？ 今、これ以上のことが世界的規模で行われている。ヒトラーでなく、アメリカという超大国が真顔でそれを言っているために、我々はあつけに取られて、ただただ真顔でそれを拝聴し、ジョージ・オーウェルの『1984』の主人公のように、これを疑ってはならないと自分に言い聞かせている。

Finian Cunningham

September 24, 2016, Information Clearing House



今週、国連総会でのオバマ米大統領による、世界の耳目を前にした、ほとんど一時間もの、ウソを並べた、眉唾の主賓スピーチに続いて、今度はトルコの指導者エルドアンが、人間の知性を侮辱するような演説を行った。

彼のアメリカの盟友が現実をさかさまにして、数知れぬ国家に対するアメリカの戦争犯罪が、美德の遺産であるかのように言ったように、エルドアンも同じような、呪文のような詭弁を操った。このトルコ大統領は、国連に向かって、彼の軍隊が先月シリアを侵略したことによって、中東地域に平和をもたらしたかのように話した。

<https://www.rt.com/op-edge/360272-handle-care-american-psycho-un/>

<http://www.hurriyetdailynews.com/erdogan-calls-on-world-to-act-against-gulenists.aspx?PageID=238&NID=104085&NewsCatID=338>

あなたは、ヒトラーが当時の国際連盟に対して、ドイツは、ヨーロッパに平和を取り戻すためにポーランドを侵略したのだ、と言っているのを想像できるだろうか？ 考えてみればこれは驚くべきことである——エルドアンとオバマが、シリアという主権国家に対し、侵略というこの上ない戦争犯罪を働いたというのに、ニューヨークの厳然たる国際会議が、この二人をこのような礼儀をもって遇するとは。

トルコ軍と米軍は、8月24日に、地上軍を援護する戦車や戦闘機を用いて、“ユーフラテスの盾”作戦を押し進めた後、北シリアの100キロ幅の帯状地域を一緒に占領している。

シリアとロシアは、ともにこの侵攻に対して憂慮を表明し、ダマスカス（シリア政府）は、これを、その主権と領土的真正さを犯すものだと弾劾した。アメリカの戦闘機は、ほとんど10年近くシリアの主権を犯し続けている。トルコとアメリカが、この最近の作戦はISISのテロ・ネットワークと戦うためだと主張したからといって、それで合法性が与えられるものではない。アメリカとトルコが、シリア領内へ侵攻してから4週間たって、アンカラ（トルコ政府）は、その占領を拡大していると言っている。

今週初めに、エルドアンは、彼の軍隊は更に南へ侵攻して、5,000平方キロの領土を取得するつもりだと言った——すでに支配している面積のほぼ5倍である。

<http://www.hurriyetdailynews.com/erdogan-calls-on-world-to-act-against-gulenists.aspx?PageID=238&NID=104085&NewsCatID=338>

トルコ - 米連合軍は、オーウェル流の言葉を使って、併合した領土を“安全地帯”と称している。誰にとってこれが“安全”になったのかは、いまだ明らかでない。

ニューヨークにいる間に、このトルコの指導者は、アメリカが一步進んで、トルコと軍事協力して——彼の言葉で——「ダエシュ (ISIS) を片付ける」ことを要請した。エルドアンは、これまで以上に強くワシントンに詰め寄り、北シリアの占領地域に、長年のトルコの目標だった“飛行禁止ゾーン”を作る協力をしてくれるよう要求した。

<http://www.hurriyetdailynews.com/erdogan-urges-cooperation-with-us-to-finish-off-isil.aspx?pageID=238&nID=104181&NewsCatID=338>

エルドアンはまた、クリントンが大統領になれば、より以上に軍事介入をエスカレートするのに好都合で、特に、飛行禁止ゾーンの実現が期待できると唆した。ヒラリー・クリントンはすでに、シリアとロシアには、これまで以上に敵対路線を取るとしており、軍事力を使ってアサド大統領を追い出すとまで宣言している。

注目すべきは、エルドアンがワシントンだけに対して、シリアの「ダエシュを片付ける」ための軍事介入の増加を要請していることである。確かに、もしトルコが、言われている目標について真剣であるなら、ロシアに助力を要請するであろう。ロシアは昨年、シリア政府に介入を要請された後、テロ集団に対して、より効果的な軍事力を証明して見せたからである。

エルドアンが、シリアでの“反テロ・ミッション”と彼の言っているものについて、アメリカとだけ組もうとしているのは、ある隠れた計画があることを示している。計画とは、シリアに対する戦争にほかならない。

“テロと戦う”という口実を用いるのは、トルコ軍と米軍がシリアの領土で、不法な作戦をしているという事実を隠している笑うべき証拠である。そして彼らが、北シリアの都市アレップに向かって勢力を拡大しようとするとき、明らかなのは、この二つの NATO メンバーが、シリア侵略の完全な態勢を取っていることである。

ワシントンとアンカラが戦っていると公に主張する、ISIS とか他のテロ組織のことは忘れよう。トルコのメディアは、昨年、エルドアン政府が、シリア内部の不法武装集団に、国境越しに兵器を送っていると暴露した。“穴だらけ”と悪名高いトルコ国境が穴だらけなのは、それがシリアに対するアンカラの、隠れた戦争の一部だからで、彼らは、ワシントンや他の NATO メンバー、英、仏、また、テロを支援するワッハブ派のサウジ政権と組んでいる。

http://www.dw.com/en/turkish-editor-can-dundar-vows-to-expose-crimes-of-state-during-trial/a-19087960?maca=en-newsletter_en_Newsline-2356-html-newsletter

ロシアの軍事監視カメラはまた、トルコ政府が、テロ集団と共謀して石油の密輸出入を行っていた——ロシア空軍がこのエルドアンの戦争ごっこを壊滅させるまで——ことを証明している。<https://www.rt.com/news/324263-russia-briefing-isis-funding/>

トルコ軍が、最近のシリアへの侵攻で協力しているいわゆる「自由シリア軍」(FSA) も同様に、より悪名高い ISIS やアルヌスラ過激派と同じく、恐ろしいテロ犯罪の共犯者である。FSA テロ・ギャングは、西側メディアでは、ある種の“精鋭反政府軍”として無害化されている。しかし彼らは、例えば、2014年3月、ラタキア地方カサブにおいて、喉を切り裂くアルカーイダとともに、トルコ軍の援護を得て大虐殺にかかわっていた。

<http://www.strategic-culture.org/news/2015/12/03/massacre-proves-turk-washington-complicity-in-syria-terror.html>

トルコが現在、FSA と共働して国境地帯を“テロリスト”から“浄化”しているなどと主張しているのは、笑うべき迷いごとである。

もっと考えられるのは、米主導の対シリア“政権交代”計画は、ロシア、イラン、ヒズボラの援護を得たシリア軍の手によって、敗北に直面している、とアンカラ政権が感じていることである。アレッポ争奪戦は、外国に支援されたテロ・ギャング代理軍にとって、最後の抵抗であり、それは2011年3月、政権交代を目指す隠れた戦争として、シリアに対して始められたものだった。

シリアに対する米主導の犯罪的共謀は、ちょうど1年前の9月のロシアによる介入が大きな要因となって、失敗しつつある。12か月の間に、戦争の潮流は、シリアの勝利には有利に、外国支援によるテロリスト“反乱軍”には不利に変化してきた。

政権交代陰謀団にとって不吉な様相が見えてきたために、トルコとアメリカは現在、直接の軍事介入を画策しているものと思われる。要するに彼らは、シリアに対する全面戦争へと動き出している。

エルドアンは、自国での失敗した7月半ばのクーデタを、ワシントンへの更なる梃子として利用しているように見える。ワシントンは、アメリカがクーデタの試みを援助したという（おそらく誇張の）トルコの非難から身をかかわして、シリアをめぐるエルドアンの要求に応えようと、より熱心になっているように見える。

https://www.washingtonpost.com/world/after-bloody-night-turkeys-president-declares-coup-attempt-foiled/2016/07/16/9b84151e-4af7-11e6-8dac-0c6e4accc5b1_story.html?wpisrc=nl_headlines&wpmm=1

今週の国連での、ロシア外相セルゲイ・ラヴロフとの交渉の間、米国務長官ジョン・ケリーは、破壊された停戦を回復する条件として、アレッポの周辺に飛行禁止区域を要求することで、エルドアンの代弁をしていた。<http://www.latimes.com/world/middleeast/la-fg-syria-ceasefire-20160921-snap-story.html>

エルドアンのトルコは、常に、アメリカの率いるテロ・スポンサー国家の中でも、最も好戦的な国家だった。失敗に終わったクーデタの後、エルドアンは、彼の南の隣人に対する秘密の戦争計画を放棄したようである。このトルコ大統領は、シリアの主たる盟友ロシアとイランに対して、笑顔攻勢を取った。彼は、アサドに対する政権交代の、好戦的な初めの要求を、引っ込めることまでした。しかし、この和解的態度らしく見えたものは短命に終わった。おそらくそれは、エルドアンがシリア国境を破って戦車を前進させたときに、ロシアとイランを油断させておくための陽動作戦だった。どうもそのようだ。

修辭的な見せかけの煙が晴れてみると、明らかに見えてくるのは、トルコとアメリカが公然とシリアと戦争をしているという事実である。そのように見ると、先週末の米戦闘機による、デール・エゾルでのシリア軍虐殺の背景が見えてくる。アメリカがこれを“アクシデント”だと主張するのは、“テロと戦っている”という彼らの苦しい主張と同じく、滑稽なウソである。

ここに提供した分析が正確だとすれば、その驚くべき結論は、戦争がすでに進行中で、ロシアとアメリカが真正面からぶつかっているということである。

そして正直に言うならば、戦争——ワシントンが責任を負うべき戦争——はずっと前から徐々に始まっていたことを、我々は認めなければならないだろう。